# Perplexity Computer「Multiagent」の事実検証と知財業務への活用考察

― 最大 16 エージェント・複数ベンダー混成チームの実像と、知財実務での使いどころ ―

2026 年 11 月 19 日時点

Claude Fable 5.2


## 要旨

テクノエッジ記事（2026 年 11 月 18 日）[1]の記述は、Perplexity 公式ブログ（2026 年 11 月 17 日）[2]とほぼ一致しており、事実関係に大きな誤りはない。知財業務では、Multiagent は「多言語・多観点の調査を並行して進め、異なるベンダーのモデルで突き合わせる」一次スクリーニングや IP ランドスケープの下調べには有力な選択肢である。一方、網羅性・再現性・機密保持が問われる無効資料調査や FTO（侵害予防調査）の最終判断、出願書類の作成を任せる段階にはない。

- **事実関係**：Multiagent は 2026 年 11 月 17 日に発表された、Computer の作業量（effort）設定の最上位（Ultra の上）である。リード役（Claude Fable 5.2）が最大 16 のエージェントに作業を割り振り、標準チームは Claude Opus 5.5／GPT 6.1 Sol／Gemini 4 Carbon で構成される。エージェント同士が直接、根拠を共有し相互にチェックする点が Ultra との違いである [2]。提供対象は Max のウェブ版で [2]、公式 X 投稿は Enterprise Max も対象と記している [3]。
- **評価**：Perplexity が公表したベンチマークでは、異なるモデルを混ぜたチームが同一モデル 4 体のチームを上回り、しかも安価だった [3]。ただしこれは自社測定であり、WANDR は同社自身のベンチマークである [4]。独立検証はなく、1 タスクあたりのクレジット消費も公表されていない [5],[6]。公式も、クレジット消費が大きいので最重要タスクにのみ使うよう呼びかけている [3]。

- **知財への示唆（分析）**：最も相性がよいのは、IP ランドスケープの下調べ、多言語の先行技術の一次探索、各国制度の比較調査、経営層向け資料の論点整理である。網羅性と再現性が求められる正式な調査や鑑定的判断、未公開発明の入力は避けるべきである。まずは Enterprise 契約を前提に、公開情報だけを使うタスクで比較検証から始めることを推奨する。

【本書の表記】出典番号を付した記述は、確認できた事実または当該出典の主張である。「（分析）」と付した記述および第 5 章は、調査に基づく分析・推論である。二次情報のみに基づく事項、再確認できなかった事項は、その旨を本文または参考文献に明記した。

## 1. 主な確認結果

1. **記事と一次ソースは整合している。**テクノエッジ記事が挙げる要素は、いずれも公式ブログ「Introducing Multiagent for the most complex work」（2026 年 11 月 17 日）で確認できた[1),2)]。具体的には、Ultra の上位であること、Max のウェブ版で提供されること、リード役が最大 16 体に作業を割り振り自身も作業すること、Fable 5.2 がリード役であること、標準チームが 3 モデルであること、依頼文でモデルを指定できること、エージェント同士が直接やり取りすること、共有ファイルを連携して編集すること、スレッドを止めるとチーム全体が止まること、Model Council との使い分けである。記事にない一次情報として、Fable 5.2 と GPT 6 Astra は、ユーザーが要求した場合か、タスクの一部が必要とする場合にのみ補助エージェントとして参加する、という点がある[2)]。
2. **齟齬・未確定点は 3 つある。**①提供対象について、公式ブログは「all Perplexity Max subscribers on the web」とする[2)]一方、公式 X 投稿は「Perplexity Max and Enterprise Max subscribers on the web」としており[3)]、Enterprise Max への言及が一致しない。②1 タスクあたりのクレジット消費は公表されていない[5),6)]。③ベンチマークは公式 X 投稿にしか示されておらず[3)]、ブログ本文には載っていない[2)]。
3. **「16 の AI が別々のモデルで」は、正確には「最大 16 のエージェントが、主に 3 系統のモデルに分かれて」動くという意味である。**16 体がそれぞれ別のモデルを使うわけではない。標準チームは 3 モデルで構成され、開発元の異なるモデルを 1 チームに混ぜられることが特

徴である [2]。見出しの「別々のモデルで」[1]は、16 種類のモデルが動くかのような誤読を招きうるので注意が必要である（分析）。

4. **知財業務での価値は「分業」と「相互検証」にある（分析）。**ただし、特許 DB の網羅性・再現性と機密保持は、Perplexity 側の機能では担保されない。

## 2. 事実関係（一次ソースによる確認）

### 2.1 発表日・対象・料金

- **発表日**：2026 年 11 月 17 日である。公式ブログの日付 [2]と公式 X 投稿（16:28 UTC）[3]による。テクノエッジの記事は 2026 年 11 月 18 日 10:07（日本時間）に公開された [1]。
- **対象プラン**：公式ブログは、Max のウェブ版の全加入者を対象と記す [2]。公式 X 投稿は Enterprise Max も対象に挙げており [3]、Enterprise Max も対象である可能性が高いが、ブログには記載がない。
- **モバイル版**：AlphaSignal（二次情報）は、Teammates と Multiagent が iOS／Android アプリでも使えるようになったと報じ、根拠として Perplexity の X 上の告知を挙げている [4]。公式ブログの一覧にも 2026 年 11 月 18 日付で「Work with teammates on mobile with voice mode」という記事が掲載されている [7]が、同記事の本文で Multiagent のモバイル対応を確認するには至っていない。発表時点の公式ブログの記載は「ウェブ版」である [2]。
- **料金**：Multiagent 単体の価格は設定されておらず、Computer のクレジットから消費される。ヘルプセンターによれば、100 クレジットが 1 ドルに相当し、Max には月 10,000 クレジット、Enterprise Max には月 15,000 クレジットが付与される [8]。同ヘルプは、effort 設定を高くするほど付与分の消費が速くなる旨を記すが、Multiagent の消費量は示していない [8]。なお、調査段階では同ヘルプに「Multiagent は（提供されている場合）Ultra より多くのクレジットを使う」との記載があるとされたが、本書作成時（2026 年 11 月 19 日）の再確認では、当該ページに Multiagent への直接の言及は確認できなかった。Max の価格は、2025 年 7 月 2 日の発表時の設定で月額 200 ドルまたは年額 2,000 ドル（年払いで月 167 ドル相当）である [9],[10]。

- **参考：通常の Computer の消費目安**：同ヘルプは、Computer の典型的な消費量の例として、複数ステップの調査レポートで 350〜950 クレジット、データダッシュボードで 2,400〜9,800 クレジットなどを挙げ、あくまで例であり保証ではないとしている [8]。Multiagent の数値ではない点に注意されたい。
- **公式の位置づけ**：公式 X 投稿は、Multiagent は性能重視に最適化されておりクレジット消費が大きいので、最重要タスクにのみ使うよう求めている。推奨用途は予測（forecasting）、高密度の問題解決、重大な意思決定である [3]。
- **「810 クレジット」説について**：byteiota（2026 年 11 月 18 日）は、14 分の実行で 810 クレジットを消費したと記すが、誰がどの条件で測定したかは示していない [11]。調査段階の確認では、この数値は Cybernews が 2026 年初頭に通常の Computer（Claude Sonnet 4.6 のサブエージェント 5 体）をテストした結果に由来するとみられ、Multiagent の実測値ではない [12]。Multiagent の実消費量は未確認である。

## 2.2 仕組み

- **構造**：リード役が計画を立てて作業を割り振る。割り振り先は最大 16 体で、リード役も一部を担当する。ユーザーが対話する相手はリード役だけで、追加の依頼はリード役が影響範囲のエージェントに伝える [2]。
- **モデル**：リード役は Claude Fable 5.2 で、標準チームは Claude Opus 5.5、GPT 6.1 Sol、Gemini 4 Carbon である。ユーザーは依頼文でモデルを指定できる。リード役が使うモデルは Ultra と同じである [2],[13]。
- **Ultra との違い**：Ultra では補助エージェントがリード役にだけ報告する。Multiagent ではエージェント同士が直接所見を共有し、他のエージェントが見つけた根拠を使ったり、前提に疑問を出したり、食い違いを追加調査に回したりする。共有ファイルの編集も連携する。公式ブログの例では、売上前提を更新したエージェントが、企業価値分析を担当するエージェントにその数字を使うよう通知する [2]。
- **可視性・制御**：作業中は、どのエージェントがどのモデルで動いているかを画面で確認できる。スレッドを止めるとチーム全体が止まる [2]。

- **Model Council との違い**：Model Council は、複数のモデルが同じ問いを独立に調べ、一致点と相違点を示す方式である。公式ブログは、互いに関連する部分を並行して進める大きな仕事には Multiagent、独立した見方が欲しい判断には Model Council を勧めている [2)]。
- **公式が挙げる用途**：業績予測の複数シナリオ、年次報告書の財務諸表・注記・経営陣の説明の食い違い検出、M&A データルームの並行精査、複雑な税務申告の準備。いずれも監査人や税理士などの専門家が確認することを前提とした例である [2)]。
- **ベンチマーク（公式 X 投稿、ベンダーによる自己報告）**：Terminal-Bench 4.1 と WANDR で、モデルを混ぜたチームはいずれも、リード役と同じモデル 4 体で組んだチームを上回った（Terminal-Bench 4.1 で+0.008〜+0.125、WANDR で+0.015〜+0.064）。最高スコアは、Gemini 4 Carbon がリード役の混成チームの 0.727 である。コストは、最上位の混成チームが 1 回 10.31 ドル（同一モデル 4 体は約 13 ドル）、WANDR では 54.50 ドル（同 66.41 ドル）だった。WANDR では 4 体チームすべてが単体モデルを上回り、4 チーム中 3 チームは単体より早く完了した [3)]。これらの数値は公式 X 投稿のみが典拠である。WANDR は Perplexity 自身が作成したベンチマークである [4)]（同社がオープンなベンチマークとして公開したとの報道もある [14)]）。

### 2.3 Perplexity Computer 本体の経緯

- 2026 年 2 月 25 日に発表され、当初は Max 加入者向けに提供された [15)]。公式 Changelog は、ウェブ版で Max 向けに提供中であること、19 のモデルにまたがって並行して作業を編成することを説明している [16)]。
- 2026 年 3 月の公式 Changelog で、MCP によるカスタムコネクタに対応した。400 以上の既製コネクタに加え、任意の MCP サーバーをつないで利用できるようになった [17)]。
- 2026 年 9 月 17 日に、effort（作業量）コントロールが導入された（Light／Standard／High／Ultra）[18)]。二次情報には 9 月 21 日付とするものもある [19)]。ヘルプセンターは、effort 設定は支出上限ではないと明記している [20)]。
- 2026 年 11 月 5 日に Teammates が提供開始された（二次情報 [21)〜23)]。公式ブログ一覧での掲載日は 11 月 4 日 [7)]）。役割を与えると常駐して働き続けるエージェントで、Max のウェブ

版から提供された。Multiagent は、Computer と Teammates の effort level として提供されている [2]。

- 同じ 2026 年 11 月 17 日には、開発者向けの Orchestrator API（45 以上のモデルを 1 つの API と一括請求で利用できる）も発表された [7],[24],[25]。Perplexity が Anthropic、OpenAI、Google、xAI のモデルを束ねる「モデル中立の層」を目指す戦略の一部と読める（分析）。
- Comet（AI ブラウザー）は別製品である。Computer はクラウド上の隔離環境で、独自のブラウザーとファイルシステムを使って長時間のタスクを実行する [26]。

## 3. 評価・評判

- **肯定的な評価**：MarkTechPost（2026 年 11 月 17 日）[27]、Unite.AI[28]、AlphaSignal[4]などは、ベンダーの異なるモデルを 1 チームに混ぜ、エージェント同士を直接やり取りさせる設計に注目している。byteiota は、主要な実運用フレームワークの多くが監督者型（hub-and-spoke）であるのに対し、Multiagent は学術的な「マルチエージェント討論」に近い設計を一般向け製品として出したと論じている。CEO の Aravind Srinivas 氏は「金融リサーチのキラー」と発言したと報じられている（byteiota 経由の二次情報）[11]。
- **批判・懸念①　自己報告の限界**：AlphaSignal は、数値はベンダー自身の報告であり、WANDR は同社自身のベンチマークなので、本番運用での信頼性・遅延・コストを立証するものではないと指摘している [4]。Yowox は、16 体という数はチームの上限であって、精度や速度の実証ではないとしている [29]。
- **批判・懸念②　コストの不透明さ**：FourWeekMBA や CellCog は、Multiagent のクレジット消費量が公表されていないことを指摘している [5],[6]。通常の Computer でも、長時間タスクが約 2 万 1,000 クレジット（その後の処理でさらに約 2,000 クレジット）を消費したという Reddit の報告が紹介されている（Substack「Product with Attitude」）[30]。
- **批判・懸念③　Perplexity 自体への評価**：Hacker News では、リサーチ品質や事業の持続性に懐疑的な声が根強い [31],[32]。国内では、読売新聞グループ 3 社が 2025 年 8 月 7 日に東京地裁への提訴を公表して約 21 億 6,800 万円を請求し [33]、朝日新聞社と日本経済新聞社も 8 月 26 日に共同提訴を公表して計 44 億円（各 22 億円）を請求した [34],[35]。さらに共同通信、毎

日新聞、産経新聞が 2025 年 12 月 1 日に抗議書を送付し、共同通信に加盟する新聞社 48 社も連名で抗議声明を出した[36),37)]。コンプライアンスを重視する企業では、調達審査の論点になりうる（分析）。

- **国内報道**：テクノエッジ[1)]のほか、GameBusiness.jp（2026 年 11 月 19 日）[38)]と Yahoo!ニュース[39)]にも転載された。調査時点では、ITmedia や日経クロステックによる独自の検証記事は見つからなかった。
- **実利用の検証**：発表から 2 日しか経っておらず、第三者による Multiagent の体系的なベンチマークや、知財分野での検証報告は確認できなかった。

## 4. 競合との比較

**表 1　並行・マルチエージェント機能の比較**

| 製品 | 並列の構造 | モデル | エージェント間の通信 | 知財利用上の含意 |
|---|---|---|---|---|
| Perplexity Multiagent[2)] | リード役＋最大 16 体 | Claude／GPT／Gemini を混在（依頼文で指定可） | 直接共有・相互チェック | 多ベンダーによる相互検証が組み込み済み。Max（公式 X 投稿では Enterprise Max も）が必要で、コストは不透明 |
| Perplexity Ultra／Model Council[2)] | Ultra：リード役＋補助（報告はリード役のみ）。Model Council：複数モデルが独立に回答 | 複数ベンダー | Ultra：なし。Model Council：統合時に比較 | Model Council は「同じ問いへの独立した見解」の比較に向く（例：特許性の論点の多面的検討） |
| Anthropic Claude（Research／Claude Code）[40),41)] | リード役が並列サブエージェントを生成。Agent teams は共有タスクリストとメッセージングで連携（実験的機能・既定で無効） | Claude のみ | Agent teams はエージェント間で直接通信 | 単一ベンダー。コード・ファイル処理に強く、MCP で社内データと連携しやすい |

| 製品 | 並列の構造 | モデル | エージェント間の通信 | 知財利用上の含意 |
|---|---|---|---|---|
| OpenAI（Deep Research／ChatGPT agent）[42),43)] | 主に単一エージェントの反復型 | OpenAI のみ | — | 長文レポートが得意。MCP で社内データと連携できる |
| Google Gemini Deep Research[43),44)] | 計画を編集できる研究エージェント | Gemini のみ | — | Workspace と連携。Google Patents との親和性は未検証 |
| Manus Wide Research[45)] | 数百の独立エージェントが同種タスクを並列処理 | 非公開 | 基本的に独立 | 「100 社の特許出願動向」など、同じ形のタスクを大量にこなすのに向く |
| Kimi Agent Swarm[46)] | 最大 300 のサブエージェント | Kimi（単一系統） | 各サブエージェントが要点をオーケストレーターに報告 | 大規模な並列探索。データの取扱いと所在地の確認が必須 |

注：調査段階では、Gemini Deep Research の API で MCP と File Search を利用できるとの記載があったが、本書作成時の再確認では出典を特定できなかったため、表からは除いた。

**独自性の評価（分析）**：Perplexity の差別化点は、エージェントの数ではない（Manus や Kimi の方が多い[45),46)]）。開発元の異なるフロンティアモデルを 1 チームに混在させ、相互にチェックさせる点にある。同じ系統のモデルは同じ誤りに同意しやすいという問題があり、その対策としての意義は理論的に妥当である。同社の公表データでも「同一モデル 4 体」より「混成チーム」が良い結果を示した[3)]。単一ベンダーへの依存を避けられる点も、モデルの世代交代が速い現状では利点である。ただし、モデルの多様性が知財特有のタスク（クレーム解釈や引用文献の特定）での誤りを本当に減らすかは未検証である。

## 5. 知財業務への活用考察（分析・推論）

### 5.1 前提となる制約（事実）

- **Perplexity Patents**：公式ブログ（2025 年 10 月 30 日）で「beta product, available worldwide」として発表され、ベータ期間中は全ユーザーが無料で使えるとされた。必要に

応じて学術論文や公開ソフトウェアリポジトリなどの非特許文献も探索すると説明されている [47]。Axios（2025 年 10 月 30 日）によれば、政策・国際担当副社長の Jerry Ma 氏は、データを「official documents straight from the government」から取得すると述べた [48]。しかし公式ブログは、収録している庁・国（JPO を含むか）、収録期間、クレームを含む全文を検索できるかを明示していない [47]。

- **Computer／Multiagent との接続**：Patents 機能を Computer や Multiagent の中から呼び出せるという公式の記述は確認できなかった。API 経由の特許検索も、コミュニティフォーラムでは 2025 年 11 月 6 日に「現時点では不可」との回答が付いており、その後に提供開始を示す投稿は見当たらない [49]。回答者が Perplexity のスタッフであるとの表示は、本書作成時の確認では得られていない。
- **商用特許 DB との連携**：商用特許 DB（PatSnap、Derwent、Questel、LexisNexis 等）との公式コネクタは確認できなかった。ただし、カスタム MCP コネクタ [17]を使えば、MCP サーバー経由で特許データを取り込むことは技術的には可能である。たとえば、USPTO、EPO OPS、JPO 等のデータを扱う MCP サーバーを公開しているリポジトリがある [50]。

## 5.2 業務別のタスク分解例

### (1) 先行技術調査・無効資料調査（一次スクリーニング）

- **分解例**：エージェント A（Gemini）が英語の特許文献を探索する（Google Patents、Espacenet の公開ページ）。B が日本語の文献を探索する（J-PlatPat は動的なサイトのため、ブラウザー操作の可否を要検証）。C が中国語・韓国語の文献を探索する。D が非特許文献（論文、規格文書、製品マニュアル、GitHub）を探す。E が構成要件ごとの対比表を作成する。F が別のモデルで、引用番号の実在・公開日・該当箇所を検証する。リード役が要件充足マトリクスに統合する。
- **評価**：観点の網羅と「見落としていた用語・分野」の発見には有効である。ただし、検索式を再現できないこと、DB 収録範囲が不明であることから、正式な無効資料調査の根拠には使えない。商用 DB での検索式に基づく調査を補完する「別系統の網」として位置づけるべきである。

### (2) FTO（侵害予防）調査

- **有効な使い方**：対象製品の構成要素の分解、関連する技術分野・競合・ライセンス状況の把握、公開されている訴訟・審判情報の収集。
- **限界**：有効な特許の母集団の確定、権利状態（存続・消滅・係属）の確認、技術的範囲への属否の判断は、商用 DB と弁理士・弁護士の判断が不可欠である。日本弁理士会の見解（令和 7 年 4 月）は、特許発明の技術的範囲に属するか否かの判断は、弁理士法 75 条の「鑑定」に当然に含まれるとしている [51]。

### (3) IP ランドスケープ、競合・技術動向分析（最も相性がよい領域）

- **分解例**：A が特許出願の動向を調べる（公開統計、出願人別）。B が IR 資料・中期経営計画を読む。C が学術論文・規格の動向を調べる。D がスタートアップ・M&A・資金調達の情報を集める。E が政策・規制を調べる。F が各エージェントの主張の数値の整合性を相互チェックする。リード役が「事業×知財」のシナリオ別示唆を作成する。
- **評価**：公式例の「複数シナリオの業績予測」「年次報告書の食い違い検出」[2] と構造が同じで、Multiagent の設計に最も合致する。特許件数などの定量値は、商用 DB の集計で必ず置き換えるべきである。

### (4) 発明発掘・明細書作成支援・クレームドラフティング・中間処理

- **有効な使い方**：発明発掘のブレインストーミング（代替実施形態、回避設計の列挙）、拒絶理由で引用された文献の公開情報の読み込みと論点整理。
- **限界**：未公開発明を入力すること自体が機密上の論点になる。弁理士でない者が報酬を得て明細書・特許請求の範囲・意見書を作成することは、弁理士法 75 条の専権業務に当たる。日本弁理士会の同見解は、報酬を得て弁理士の専権業務を実質的に行えば 75 条違反と考えられるとし、「AI を利用したものであっても、同様である。」と明記している [51]。企業内での自社出願の下書き支援と、第三者へのサービス提供とでは評価が異なりうる。

### (5) 判例・審決調査、各国の法制度・審査基準の比較

- 法域ごとにエージェントを割り当てる分業（日本・米国・欧州・中国・韓国）と、別モデルによる条文・判決番号の実在確認は相性がよい。存在しない判例や番号が生成されるリスクがあるため、一次資料（裁判所・特許庁のサイト）での照合を必須とする。

### (6) 知財戦略の立案、経営層向け資料、コーポレートガバナンス・コードに沿った開示支援

- 他社の統合報告書・有価証券報告書の知財関連の開示を並行して収集・比較し、開示の型と水準を整理する作業は、公式例の「年次報告書の食い違い検出」に近く、Multiagent の強みが出やすい。

### (7) 契約・ライセンス、SEP／FRAND、技術標準

- 標準化団体ごと（ETSI、IEEE 等）の宣言特許の公開情報、各国の FRAND 判決、パテントプールの料率公開情報を並行して調べるのに向く。契約書の内容を入力する場合は、守秘義務と契約上の第三者開示禁止条項を確認する必要がある。法的評価については弁護士法 72 条の論点にも留意する。

### (8) 少人数の知財部・中小企業・特許事務所

- 「調査の下準備を担うアナリスト数名分」の代替としての価値は大きい。ただし前提として Max（月額 200 ドル相当 [9]）以上が必要で、クレジット消費も読めない。まずは Model Council、Ultra、Perplexity Patents（無料のベータ版 [47]）で足りるかを試すのが、費用対効果に優れる。

## 6. リスクと留意点

- **機密情報・未公開発明**：個人向けの Free／Pro／Max は、AI データ保持の設定が既定でオンであり、学習に利用されうる（設定でオフにできるが、それ以前に収集されたデータには及ばないとされる。二次情報）[52),53)]。Enterprise について、ヘルプセンターは、Enterprise のデータを学習・ファインチューニングに使わず、第三者 AI プロバイダーとの契約でも学習を禁じていると明記している [54)]。ただし第三者プロバイダー側のデータ保持（ゼロデータ保持）の扱いには、情報源によって食い違いがある（Jazz Security は、Slack Marketplace の掲

載情報に、一部プロバイダーが 30 日間保持するとの記述があると指摘している）[55]。Multiagent は構造上、Anthropic・OpenAI・Google の 3 社以上にデータが流れるため、サブプロセッサー管理、データの所在地、監査ログの確認が単一ベンダーより複雑になる（分析）。出願前の発明を入力すること自体が直ちに新規性喪失（特許法 29 条 1 項の「公然知られた」）に当たるとは一般に解されていない。それでも、守秘義務・営業秘密の秘密管理性の観点から、未公開発明は入力しないことを原則とすべきである。

- **特許 DB の制約**：収録範囲が不明で、検索式による再現ができず、結果も毎回変わりうる。そのため無効資料調査・FTO の「網羅性の証明」には使えない。
- **ハルシネーション**：存在しない特許番号、誤った公開日、判例の誤引用のリスクがある。エージェント間の相互チェックは誤りを減らしうるが、誤った前提が共有ファイルを通じて伝播するリスクもある（分析）。全件について原文・公報で照合することが必須である。
- **法規制**：日本弁理士会の見解は、無資格者が報酬を得て明細書等の作成や「鑑定」（属否判断を含む）を実質的に行う場合は、AI を利用していても 75 条違反と考えられるとしている。さらに、弁理士が AI の生成結果を検討せずにそのまま使って代理する場合は、善管注意義務（民法 644 条）違反のおそれがあるとしている [51]。社内知財部の自社案件での利用が直ちにこれに当たるわけではないが、調査会社やコンサルタントが Multiagent の成果物を「鑑定的見解」として有償で提供する場合は、慎重な検討を要する。
- **知財特化ツールとの使い分け（推奨）**：検索式・母集団・統計の確定は、PatSnap、Derwent、Questel、LexisNexis、Patentfield、Amplified 等の商用 DB で行う。要約・対比・読解の効率化には、Summaria、Tokkyo.Ai 等の特化 AI を使う。Multiagent は「特許外の情報との統合」「多観点の仮説生成」「別系統のクロスチェック」に限定する、という三層構造が合理的である。

## 7. 提言

1. **契約形態**：業務で使う場合は、Enterprise Max（学習不使用が明記され、データ保持期間の設定と監査ログがある [54]）を前提とする。個人の Max で試す場合は、AI データ保持をオフにし、公開情報のみを扱う。

2. **最初に試すユースケース（公開情報のみ）**：①競合 3〜5 社の知財・事業戦略の比較（IR 資料と公開特許の統計）、②各国の審査基準・判例の比較（例：AI 関連発明の進歩性）、③既に結論の出ている過去の無効資料調査案件の「再現テスト」。
3. **検証方法**：同じ課題を Ultra、Model Council、Multiagent、既存の商用 DB 調査で比較する。評価指標は、既知の重要文献の再現率、誤引用率、所要時間、消費クレジット、人によるレビュー時間とする。特に誤引用率と消費クレジットは必ず記録する。
4. **社内ルール**：入力禁止情報（未公開発明、契約書の原文、顧客情報）を定める。成果物には「AI 生成・未検証」の表示をし、番号・判例は全件照合する。鑑定的な結論は弁理士・弁護士が判断する。Multiagent は公式の推奨どおり「重要タスクのみ」に使い、月間のクレジット上限を運用で管理する。
5. **技術的な拡張**：特許データの網羅性を高めたい場合は、商用 DB の API や EPO OPS、JPO の API を包むカスタム MCP コネクタの導入を情報システム部門と検討する。ただし、データの流れが 3 社以上のモデルに及ぶ点をセキュリティ審査で確認する。

## 8. 留意事項

### 8.1 本書の限界

- 事実関係は、Perplexity 公式ブログ、公式 X 投稿、ヘルプセンターに基づく。公式 X 投稿は本体を取得できておらず、検索結果の抜粋を通じた確認である。ベンチマーク値は公式 X 投稿のみが典拠で、独立した検証はない。
- モデル名（Claude Fable 5.2、GPT 6.1 Sol、Gemini 4 Carbon 等）は発表時点のものであり、Perplexity は構成を随時変更しうる。
- Enterprise Max が対象かどうか、モバイル版での提供、1 タスクあたりのクレジット消費は、公式ソース間で不一致または未公表である。
- Perplexity Patents の収録範囲（JPO を含むか）、および Computer 内での利用可否は確認できなかった。

- 弁理士法・特許法に関する記述は、日本弁理士会の見解と一般的な解釈に基づく考察であり、個別案件への法的評価ではない。

### 8.2 本書作成時（2026 年 11 月 19 日）の再確認で修正・留保した点

1. クレジットに関するヘルプページには、Multiagent の消費量への直接の言及を確認できなかった（2.1）。
2. Teammates の提供開始日は、二次情報では 11 月 5 日、公式ブログ一覧の掲載日は 11 月 4 日である（2.3）。
3. 特許検索 API に関するフォーラムの回答は、回答者がスタッフである旨の表示を確認できていない（5.1）。
4. 国内報道機関による提訴・抗議の出典は、内容を確認できた Impress Watch 等の記事に差し替えた。調査段階にあった「共同通信加盟社 55 社のうち」という母数は裏付けが取れなかったため、記載していない（3）。
5. Gemini Deep Research の API 機能に関する記載は出典を特定できず、比較表から除いた（4）。
6. MarkTechPost、Cybernews、MLQ.ai、FourWeekMBA（Orchestrator API の記事）、Yahoo!ニュースの各ページは取得できず、表題・内容を再確認できていない（参考文献に※で明記）。

## 参考文献

本文中の上付き番号に対応する。URL は 2026 年 11 月 19 日に確認した。※を付したものは、ページを取得できなかった、または一部しか確認できなかった出典である。


1) テクノエッジ編集部ピックアップ「Perplexity Computer に「Multiagent」登場　最大 16 の AI が別々のモデルで並行作業」テクノエッジ（2026 年 11 月 18 日 10:07）　https://www.techno-edge.net/article/2026/11/18/5758.html

2) Perplexity「Introducing Multiagent for the most complex work」Perplexity 公式ブログ（2026 年 11 月 17 日）。ページ表題は「Introducing Computer's Multiagent effort level」 https://www.perplexity.ai/hub/blog/introducing-computer-multiagent

3) Perplexity（@perplexity_ai）公式 X 投稿、Multiagent 発表スレッド（2026 年 11 月 17 日） https://x.com/perplexity_ai/status/2122728603909783741 https://x.com/perplexity_ai/status/2122728654400815244 https://x.com/perplexity_ai/status/2122728671261917437　※X 本体は取得不可。調査段階で検索結果の抜粋を通じて確認した内容に基づく

4) AlphaSignal Newsroom「Perplexity Brings 16-Agent AI Teams to iPhone and Android」AlphaSignal（掲載日の明示なし、2026 年 11 月 18 日頃）　https://alphasignal.ai/news/perplexity-brings-16-agent-ai-teams-to-iphone-and-android

5) FourWeekMBA「Perplexity Puts Multiagent Behind Its $167-a-Month Max Plan」（掲載日の明示なし、2026 年 11 月）　https://fourweekmba.com/ai-perplexity-puts-multiagent-behind-its-167-a-month-max-plan/

6) Nitish Garg「Perplexity Multiagent: Mixed-Model Teams, Benchmarked」CellCog Blog（2026 年 11 月 17 日）　https://cellcog.ai/blog/perplexity-multiagent/

7) Perplexity 公式ブログ記事一覧（Perplexity Hub Blog）。2026 年 11 月 4 日付「Teammates are agents for complex, ongoing work」、11 月 17 日付「Introducing Orchestrator: One API for frontier and open-weight models」、11 月 18 日付「Work with teammates on mobile with voice mode」等を掲載 https://www.perplexity.ai/hub/blog

8) Perplexity Help Center「How credits work on Perplexity」（日付表示なし） https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/13838041-how-credits-work-on-perplexity

9) PYMNTS「Perplexity Launches $200-a-Month Subscription Tier Promising 'Limitless AI Productivity'」（2025 年 7 月 2 日）　https://www.pymnts.com/?p=2794150

10) SiliconANGLE「Perplexity AI launches new 'Max' subscription priced at $200/month」（2025 年 7 月 2 日）　https://siliconangle.com/2025/07/02/perplexity-ai-launches-new-max-subscription-priced-200-month

11) ByteBot「Perplexity Multiagent: 16 Agents That Cross-Check Work」byteiota（2026 年 11 月 18 日） https://byteiota.com/perplexity-multiagent-16-agents-cross-check/

12) Cybernews、Perplexity Computer のレビュー記事（表題・掲載日は未確認）　https://cybernews.com/ai-tools/perplexity-computer-review/　※本書作成時に取得できず、内容は再確認できていない

13) NeoTeo「Perplexity Computer Multiagent: How agents work」（2026 年 11 月 18 日） https://www.neoteo.com/en/perplexity-computer-multiagent-how-agents-work-together

14) Times of AI、WANDR ベンチマークに関する記事（表題・掲載日は未確認）
https://www.timesofai.com/news/perplexitys-wandr-tests-ai-research-agents/ ※検索結果の抜粋のみ確認

15) Perplexity「Introducing Perplexity Computer」Perplexity 公式ブログ（2026 年 2 月 25 日）
https://www.perplexity.ai/hub/blog/introducing-perplexity-computer

16) Perplexity Changelog「Perplexity Computer, Perplexity on Samsung Galaxy S26, and upgraded Comet Voice Mode」（ページ表示は 2026 年 2 月 26 日、URL 上は 2 月 27 日付）
https://www.perplexity.ai/changelog/what-we-shipped---february-27-2026

17) Perplexity Changelog「Computer for Pro subscribers, Computer for Slack, and Personal Computer」（ページ表示は 2026 年 3 月 12 日、URL 上は 3 月 13 日付） https://www.perplexity.ai/changelog/what-we-shipped---march-13-2026

18) Perplexity「Computer adds effort controls for model selection」Perplexity 公式ブログ（2026 年 9 月 17 日） https://www.perplexity.ai/hub/blog/computer-adds-effort-mode-for-model-selection

19) The Oxford AI School「What Are the New Features of Perplexity? (October 2026)」（2026 年 10 月 10 日更新） https://www.theoxfordaischool.com/new-features-of-perplexity

20) Perplexity Help Center「Effort mode in Perplexity Computer」（日付表示なし）
https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/20260917-effort-mode-in-perplexity-computer

21) NeurAITool「Perplexity Teammates: AI Agents That Own Your Ongoing Work」DEV Community（2026 年 11 月 7 日投稿） https://dev.to/neuraitool/perplexity-teammates-ai-agents-that-own-your-ongoing-work-1bpd

22) Shikhar Mehrotra「Perplexity's new AI coworkers can take over your workload, but they don't come cheap」Digital Trends（2026 年 11 月 5 日） https://www.digitaltrends.com/cool-tech/perplexitys-new-ai-coworkers-can-take-over-your-workload-but-they-dont-come-cheap/

23) MLQ.ai、Perplexity Teammates に関する記事（表題・掲載日は未確認）
https://mlq.ai/news/perplexitys-teammates-put-always-on-ai-agents-behind-a-200-monthly-paywall/ ※本書作成時に取得できず、内容は再確認できていない

24) FourWeekMBA、Perplexity の Orchestrator API に関する記事（表題・掲載日は未確認）
https://fourweekmba.com/ai-perplexity-opens-its-router-45-models-no-routing-fee/ ※本書作成時に取得できず、内容は再確認できていない

25) Graziano Stefanelli「Perplexity launches Context API to extract web pages at $1 per 1,000 URLs」Data Studios（2026 年 11 月 18 日） https://www.datastudios.org/post/perplexity-context-api-web-page-extraction-1-per-1000-urls

26) mob.so「Official Perplexity Computer Breakdown (2026)」（2026 年 10 月 2 日）
https://mob.so/blog/official-perplexity-computer-breakdown

27) MarkTechPost、Multiagent に関する記事（2026 年 11 月 17 日付、表題は未確認）
https://www.marktechpost.com/2026/11/17/perplexity-computer-multiagent-effort-level/ ※本書作成時に取得できず、内容は再確認できていない

28) Jonas Reeve「Perplexity Launches Multiagent to Coordinate Frontier AI Models」Unite.AI（2026 年 11 月 17 日） https://www.unite.ai/perplexity-launches-multiagent-to-coordinate-frontier-ai-models/

29) Alex「Perplexity Computer adds peer checks across up to 16 agents」Yowox（2026 年 11 月 18 日）
https://yowox.com/posts/perplexity-computer-adds-peer-checks-across-up-16-agents/

30) Karo Zieminski「I Tested Perplexity Computer Hard. Here's How I'd Save Credits Now」Product with Attitude（Substack、2026 年 3 月 13 日） https://karozieminski.substack.com/p/save-credits-perplexity-computer

31) Hacker News、「Perplexity launches AI agents for work」スレッド内のコメント（2026 年 11 月上旬） https://news.ycombinator.com/item?id=50396681

32) Hacker News、「Perplexity Makes Longshot $34.5B Offer for Chrome」スレッド内のコメント（2025 年 8 月 12 日） https://news.ycombinator.com/item?id=44877960

33) Impress Watch「読売新聞、AI 検索の Perplexity を提訴」（2025 年 8 月 7 日） https://www.watch.impress.co.jp/docs/news/2037798.html

34) Impress Watch「朝日と日経、AI 検索の Perplexity を提訴 44 億円請求」（2025 年 8 月 26 日） https://www.watch.impress.co.jp/docs/news/2041960.html

35) Bloomberg Law「Top Japan News Outlets Sue Perplexity for Copyright Breach (1)」（2025 年 8 月 27 日） https://news.bgov.com/artificial-intelligence/top-japan-news-outlets-sue-perplexity-for-copyright-violations ※有料記事。冒頭部分のみ確認

36) Impress Watch「共同通信と毎日新聞、産経新聞が Perplexity による著作権侵害に抗議」（2025 年 12 月 2 日） https://www.watch.impress.co.jp/docs/news/2067837.html

37) PC Watch「共同通信加盟の 48 社が Perplexity の「ただ乗り」に抗議。誤情報拡散も指摘」（2025 年 12 月 2 日） https://pc.watch.impress.co.jp/docs/news/2067753.html

38) テクノエッジ編集部「Perplexity Computer に「Multiagent」登場―最大 16 の AI が別々のモデルで並行作業」GameBusiness.jp（2026 年 11 月 19 日 6:45） https://www.gamebusiness.jp/article/2026/11/19/28750.html

39) Yahoo!ニュース掲載記事（テクノエッジ記事の転載とみられる） https://news.yahoo.co.jp/articles/38c6cf5af8f39158c4244e1f41ab9314a50bc638 ※本書作成時に取得できず、表題・内容は未確認

40) Anthropic「Run agents in parallel」Claude Code Docs https://code.claude.com/docs/en/agents

41) Jose Parreño Garcia「Claude Code agent teams: when and how to go multi-agent」Senior Data Science Lead（Substack、2026 年 9 月 11 日） https://joseparreogarcia.substack.com/p/claude-code-agent-teams

42) Suprmind「ChatGPT Features 2026: Projects, Memory, Agent, Sora and More」（日付表示なし） https://suprmind.ai/hub/chatgpt/features/

43) We The Flywheel「Best AI Research Tools: ChatGPT, Gemini, Claude, Perplexity, Elicit and Three More Scored」（2026 年 11 月 5 日） https://wetheflywheel.com/en/guides/best-ai-research-agents-2026/

44) Boris Agatić「Deep Research AI Agents 2026: How ChatGPT, Claude, Mistral & Manus Research for Your Business」AI Workshop（2026 年 9 月 29 日） https://ai.blocksize.hr/blog/en/deep-research-ai-agents-2026.html

45) Manus「Wide Research」Manus Docs https://manus.im/docs/features/wide-research

46) Kimi「Agent Swarm」Kimi Help Center https://www.kimi.ai/help/agent/agent-swarm

47) Perplexity「Introducing Perplexity Patents: AI-powered patent search for everyone」Perplexity 公式ブログ（2025 年 10 月 30 日） https://www.perplexity.ai/hub/blog/introducing-perplexity-patents

48) Ashley Gold「First look: Perplexity launches AI patent directory」Axios（2025 年 10 月 30 日） https://www.axios.com/2025/10/30/perplexity-ai-patent

49) Perplexity Community「Patent search via API」（2025 年 11 月 6 日開始のスレッド） https://community.perplexity.ai/t/patent-search-via-api/2494

50) parkerhancock/patent-client-agents（GitHub リポジトリ、「Intellectual property data tools for AI agents」） https://github.com/parkerhancock/patent-client-agents

51) 日本弁理士会「AI 等を用いた業務支援サービスの提供と弁理士法第 75 条との関係について」（令和 7 年 4 月） https://www.jpaa.or.jp/cms/wp-content/uploads/2025/04/AIservices-article75.pdf

52) Bearly「Is Perplexity private? What Perplexity keeps」（2026 年 11 月 11 日確認との記載） https://bearly.ai/guides/perplexity-privacy

53) BeeSensible Editorial「Is Perplexity safe for work? What happens to what you type」（2026 年 5 月 8 日公開、11 月 4 日更新） https://beesensible.eu/resources/blog/perplexity-privacy-risks/

54) Perplexity Help Center「Data retention and privacy for Enterprise organizations」（日付表示なし） https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/11187708-data-retention-and-privacy-for-enterprise-organizations-and-users

55) Jazz Team「Is Perplexity safe for company data, and does it train on or keep what employees search, paste and upload?」Jazz Security（2026 年 10 月 16 日公開、10 月 23 日更新） https://jazz.security/dlp-explained/dlp-basics/is-perplexity-safe-for-company-data/

**その他の参照資料（調査段階で参照されたが、本書では個別に引用していないもの）**

56) Perplexity（@perplexity_ai）公式 X 投稿（2026 年 11 月 17 日、発表スレッドの後続投稿） https://x.com/perplexity_ai/status/2122785177135096053 ※取得不可、内容は未確認

57) Yahoo!ニュース掲載記事 https://news.yahoo.co.jp/articles/d4a216a7171f0fcd1d0438ffc956d6d9079987b5 ※取得できず、表題・内容は未確認